各庁に聞きました！

「Microsoft 365で業務改善やってみた」⑥

M365の活用で、現場の悩みがどう解消されていったのか？各庁の取組を教えていただきました。
今回は、裁判事務におけるPlannerの活用について、高松高裁刑事部のみなさんにインタビューです！

参加メンバー

高松高裁刑事部のみなさん

訟廷管理官
陰山さん

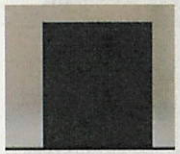
裁判所事務官
嵯峨さん

[redacted]

最高裁

デジ室
草野さん

総務局
西名さん



デジ室
遠藤さん

総務局
鈴木さん

デジ室
中川さん

高松高裁の取組はこちら（その1）（その2）

令和６年６月　最高裁デジタル総合政策室

私たち、こんなことに取り組みました！

●上告事件記録の管理にPlannerを活用●

これまでは、記録の所在は送付簿で確認、最高裁への記録送付状況は[redacted]で確認or送付簿で確認…

Plannerを使用することで、机上で記録の所在や事務の進捗などが全て確認可能に。
記録送付のスケジュールや査閲状況の共有ができたことで、最高裁への送付も迅速化！

取組を進める上での４つのPoint

① 記録の所在の一覧性…かつては[redacted]で事件ごとに確認
② 現在の事務処理状況を確認可能
③ 通知機能…かつては査閲が始まったか訟廷係には不明
④上告事件記録送付スケジュールの共有

→これらを満たすアプリは…Planner！
※その後、確定記録の管理にも活用の幅を広げました。

こうやって課題を見つけました！

なぜ、上告事件記録の事務改善を行おうと考えたのですか？

[redacted]

裁判所事務官
嵯峨さん

立会係が訟廷係から最高裁への記録送付の動きを知るには、訟廷係に確認するしかありません。問合せを受けた訟廷係は、紙の送付簿や[redacted]などを見る必要があります。また、記録送付のスケジュールを踏まえて、その都度、皆さんの進捗状況を把握しなければならない…などいろんな場面で問題意識がありました。

[redacted]

訟廷管理官
陰山さん

「M365が導入されたし、何か活用できる事務はないだろうか？」といった雑談レベルでアイディアを求めたところ、嵯峨さんから上記の問題意識が。「やってみよう」精神で始めた取組です。

どのように取組を進めていったのですか？

[redacted]

裁判所事務官
嵯峨さん

まず、書記官チームでテスト版を試した後、裁判官＋書記官チームで検討を進めました。 割り当て通知がどのように届くか周りの職員と確認するなど、みんなで試しながら取組を進めていきました。「取組を進める上での４つのPoint」（P.２参照）を基に、色々なアプリを調べましたが、一番必要な機能を備えていたのがPlannerでした！

Microsoft 365のアプリ一覧に書かれている機能の説明を見て、Plannerが一番使えそうだと思ったんだって！このほかにも、ウェブ検索を活用して、アプリについて知ることもできそうだね。

職種・係を越えて取り組みました！

関係する職種や係の多い取組であったと思いますが、どのような形で取り組んでいったのですか？

裁判所事務官
嵯峨さん

部会でPlannerによる上告事件記録の管理をエントリー。検討を進める中、裁判官室や立会係から要望がたくさん出されましたが、全ての要望には応じられません…。
そこで、本取組の目的に立ち戻って、特に見やすさを重視して検討しました。例えば、高裁・最高裁間の記録保持状況を一覧にし、タスク名に被告人氏名を掲載することにしました。根拠となる事務連絡にあたり、関係各所と調整して機能を追加していきました。

取組を進める中で、職員のみなさんの反応はどうでしたか？

裁判所事務官
嵯峨さん

「Planner」と聞いてもイメージが沸かない職員が多かったと思います。まずは「タスク管理アプリを記録管理に使います」と簡潔にポイントを説明して、とにかく触ってもらうようにお願いしました。みんな「いいじゃない！」と積極的に使ってくれたことはとても励みになりました。また、実際に使ってみることで使い勝手の良さを体感してもらえたのだと思います。

取組を円滑に進めるための、ひと工夫

有意義な取組として長く使い続けていくために、
工夫したことはありますか？

裁判所事務官
嵯峨さん

至急査閲してほしいときは、ラベル付けや重要度設定機能を使ってアピールするなど、臨機応変な対応もしながら使用しています。
今後の課題は、メンバーが替わっても使い続けてもらうために工夫することです。転入者からすれば「なんでこの事務をやっているんだろう」と疑問が生じることはあるはず。そこで、今はマニュアルの冒頭にPlannerで事務を行う目的を記載したり、Plannerの機能紹介をしたりすることで、継続して活用してもらえるよう工夫しています。

訟廷管理官
陰山さん

アプリの利用は手段であって大切なのは事務の目的を考えることです。今はPlannerが適していると思っていますが、今後、もっと合理化できる方策があれば、いろいろ試してみたいですね。

総務局
鈴木さん

紙媒体の記録であることがアプリを使用したタスク管理を難しくさせる場面もあると思いますが、タスク割当やその他の機能を上手く活用して、迅速な事務処理を実現させたんですね。本当にすごいと思います！

こんな変化がありました！

職員のみなさんからどんな反応がありましたか？
また、業務に変化はありましたか？

[redacted]
裁判所事務官
嵯峨さん

スケジュールを全体共有できて、わかりやすい、使いやすいと好評です！
また、Plannerを使ってから事務遅滞は生じていません！査閲・決裁の期限、検察庁への送付などの予定を入力し、スケジュールをみんなで共有できるようになったことや、それぞれの処理状況が見える化した効果だと思います。職種に関わらず、記録の在りかと事務の動きが見えるようになった点も大きな効果です。

[redacted]
総務局
西名さん

私もPlannerで決裁管理・案件管理を行っていますが、アプリだけで事務の進捗状況を共有・把握できる点に大きなメリットを感じています。これを事件記録の管理に応用する発想が素晴らしいですね。

[redacted]
訟廷管理官
陰山さん

私自身は、これまで確定事件記録の返還が遅れているように感じていました。「やってみよう」精神で上告事件記録管理用Plannerを応用し、確定事件記録管理版として使ってみたところ、事務遅滞の原因が判明。事務改善につなげることができました。送付事務の目的は、迅速に記録を最高裁に送り、判断していただくこと。Plannerはあくまで業務改善の１つのツールであり、今回の取組を進める中で事務の目的を部内で再確認できたことがよかったと思います。

この取組がもたらした最大の効果とは…

今後取り組んでみたいことはありますか？

[redacted]
訟廷管理官
陰山さん

Plannerによる上告事件記録の管理と確定事件記録の管理を統合することを構想中です。また、立会係で控訴事件記録の進行管理へ活用する検討が始まりました。これは、嵯峨さんのアイディアが形になった実例を目にした立会係の若手職員が、自分もやってみようと始まったものです。今回の取組が刑事部全体の雰囲気を変化させたんです。

[redacted]
裁判所事務官
嵯峨さん

そのように言っていただけて嬉しいですし、自信にもつながります。「若手だから」と遠慮する必要はなく、新しい部署でも積極的に発信していくことができそうです。

[redacted]
訟廷管理官
陰山さん

嵯峨さんのアイディアを実現させようと決まってから最初に驚いたのは行動力。わずか３日間で原型を作成してくれました。若手を育成する上で、管理職は細々したことを言うのではなく、まずは任せてやってみてもらうことが大切だと感じました。いまや、この取組は他の係にも広がりを見せていて、組織的なメリットが大きかったと思います。若手が活躍できる場ができて率直に良かったです。

[redacted]
デジ室
草野さん

上告事件記録の管理から確定事件記録の管理へ、訟廷係から立会係へと取組がどんどん広がっているのですね。本当に素晴らしいことだと思います！